

うまんちゅ しゃべり場 2025



沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクト

うまんちゅしゃべり場とは？

子ども・若者とおとなが対等に話し、聴き合う対話型ワークショップです。

2023年に施行された「こども基本法」により、自治体は子どもの意見を施策に反映することが義務付けられました。沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクトでは、子どもの権利に根差した地域づくりのアイデアを聴き合う場として2024年10月に沖縄県うるま市で第1回うまんちゅしゃべり場を開催、今回は2回目です。当日は、開始前の準備や昼食を子どもたちと一緒に過ごし交流を深め、ワークショップでは、子どもの権利を学んだり、緊張をほぐすためのクイズなども行いました。

開催概要

日時 | 2025年10月25日(土) 13:00~15:30

会場 | いちゅい具志川じんぶん館
(沖縄県うるま市)

参加者 | うるま市、沖縄市の子ども・若者19名
(児童館や居場所など6事業所)、
おとな12名

後援 | うるま市、うるま市教育委員会



ワークショップの流れ

テーマ「2035年沖縄がウェルビーイング1位になっているとしたら？」

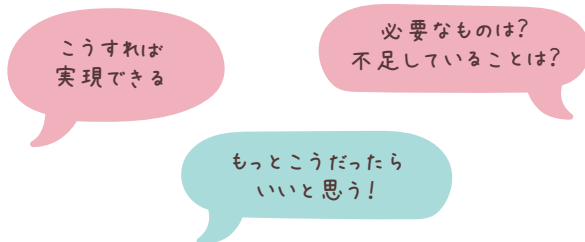
01 1人1人の「こうなったらいいな」を思い描こう



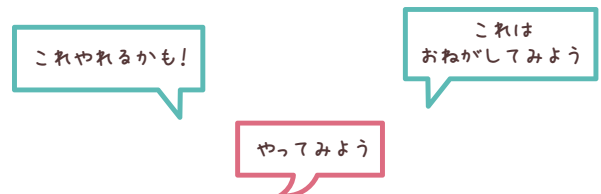
02 グループで「こうなったらいいな」をひとつ選ぼう



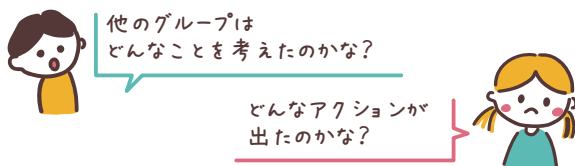
03 実現するためのアイデアを出そう



04 さらにアイデアを実現するためのアクションを書き出そう



05 ポスターセッション



06 最後に「わたしのアクション」を考えてみよう



子ども・若者に聴いた 「子どものウェルビーイングが高い！」まちづくりとは？

このワークショップでは、「今のまちに何が足りないのか」「どう変わると暮らしやすくなるのか」について、8つのグループから様々な声が聞かれました。その中には共通する子ども・若者が感じている課題がありました。以下は、参加者の声をもとに5つにまとめた、具体的な施策の提案です。

① 多様なニーズに応える居場所の創出 安心して過ごせて、楽しくつながれる「居場所」「相談できる人」を増やす

ありのままの自分で安心して過ごせる居場所がない、気軽に相談できる人がいないと子どもたちは感じていました。家庭、学校、地域、子ども時代を過ごす全ての場所に、子どもの話をありのまま聴き受け止め、彼らの選択と自己決定を応援するおとながいることが求められています。多様な子どもたちが自分の場所だと思える居場所については、「趣味などで楽しくつながれたり、何の理由もなく誰でも利用できる」など具体的なアイデアが多数でできました。既存の制度も活用しながら、新しいアイデアによるみんなの居場所を子どもたちと一緒に創っていくことが必要ではないでしょうか。

② 移動しやすいまちづくり(バス・交通)

車社会の沖縄で、保護者の送迎がなくては自由に出かけられない、バス代の負担や本数の少なさにより、行きたい場所があっても移動できず活動の選択肢が制限されるという課題がありました。移動の不便さにより参加の機会が保障されていないという子ども・若者の切実な声です。子どもや若者が利用しやすいバス料金の設定や、土日を含めた運行本数の見直し、目的地に合わせた路線や交通手段の工夫などが望まれています。

③ 安全で快適な公園・公共施設

公園があっても整備が不十分で使いにくい、暑さや安全面が不安で遊べないという意見も多数ありました。子どもにとって自由に遊べる公園が身近にあることはとても大切です。屋根付きエリアの設置や、ボール遊びができる空間づくり、清掃や防犯体制など、安心して使える公園・公共施設の整備が求められています。

④ 体験・挑戦できる機会を広げる

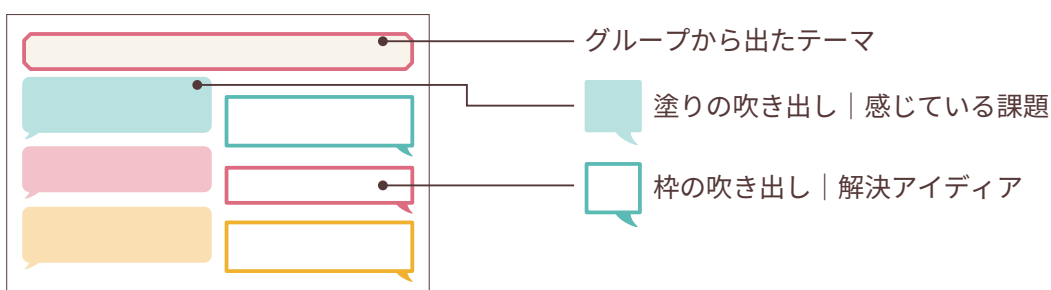
仕事体験やものづくり、動物とのふれあいなど、子どもが『やってみたい』と思える体験の機会を増やしてほしいという声が多くありました。キャリア教育の取り組みでも一層、地域の企業や団体と連携し、学びや将来につながる体験を提供する仕組みづくりに期待が寄せられています。

⑤ 子ども・若者の意見をまちづくりに活かす

計画やルールが、本人不在のまま決められていると感じている声も多数ありました。こども基本法に定められたように、子どもの権利を守り子ども・若者の声をしっかり聴いて実際の施策に反映していく仕組みを整えることが重要です。子ども・若者がまちづくりに参画できれば、本人たちにはもちろん、誰でも住みやすいまちになるのではないでしょうか。

各グループから出されたテーマと課題、解決のためのアクションは、次のページに続きます。

グループページの見方



グループ 1 | **子どもがやりたいことをできる！おとなは応援して！！**
 (子ども 2名・若者 1名・おとな 2名)

感じている課題

#いろいろな体験をしたい

- ・やりたいことをやりたいといえない。
- ・相談できない。(相談相手がいない)
- ・応援してくれるおとながいない(否定される)協力してほしい。
- ・修学旅行に行ってみたかった。(コロナで行けなかった)
- ・運動会でソーラン節を踊ってみたかった。

#働きたい

- ・働くことで知らない世界をしりたい。
- ・気になるバイトは保育士、居酒屋、焼き肉屋などなど。
- ・職場体験第一希望通らなかった。
- ・子どものころからお金を稼ぐ方法を知りたい。
- ・自由に使えるお金が欲しい、稼ぎたい。
- ・学校の勉強だけじゃ足りないこともある。



#活動場所・移動

- ・昼間に活動できる場所がない(少ない)
- ・活動できる範囲が狭い。移動が難しい。
- ・バス代が高い。

解決アイデア

- ・おとなは子どものやりたいを真剣に聞く。
- ・心配だけでなく信頼してほしい。
- ・「やってみたい」を大事にする。
- ・ルールや常識の前にやらせてみるのが大事!!
- ・運動会の種目もやりたいのを選ぶようにする。



- ・子どもが興味のある仕事を実習、体験先にする。
- ・企業にも子ども受け入れ態勢を整えてもらう。
- ・体験したい企業に直接言ってみる？
- ・メールでリクエストしてみる。
- ・中学校の職場体験コーディネートの先生に伝える。

- ・どこまで行っても路線バス無料キャンペーンもう一回!!
- ・とりあえず毎月4日分全部のバスが無料。

グループ 2 | **一人で抱え込ませない、苦しむ子の話を聞く、保護者ではなく子ども本人の主張が通る。そんな社会になってほしい。**
 (子ども 2名・若者 1名・おとな 2名)

#孤立しない・身近な支え合い

- ・一人で抱え込んでしまうことが多い。
- ・頼ることがニガテ、頼り方、場所が分からない。

- ・協力し合える環境が必要！
- ・話を聞くよ、聞きたいよって人地域にいそう。(おばあ)
- ・苦しんでいる子の話を側にいる人がきく。
- いろいろな場所や人と繋がる。

#安心して自分を出せる場所

- ・自分が出せる場所が欲しい。
- ・自分のことを受け入れてくれる所って…。
- ・あまり安心して相談できる場所を知らない。

- ・気軽に相談できる人がいる場所を創る。
- ・色々な仕事ができる居場所があるといい。
- ・子どもが主体の居場所を作ってほしいな。
- ・保護者の仲介なしで利用できる場所ほしい。

#子どもの意見・本人の意思が尊重されること

- ・子ども本人のいないところで話し合いがされ、勝手に話が進んでいる。
- ・役所で勝手に決めてない?
- ・子どもが断ることはできる?
- ・保護者が一緒に話づらい。



- ・子ども本人も混ぜて納得するまで一緒に話し合いする。
- ・保護者ではなく子ども本人の主張が通る。個別に話がきかれる。
- ・未成年の意見を役所がしっかりきく。納得できる理由を説明してもらう。
- ・色々な決定場面に子どもが参加できるシステム作って!!

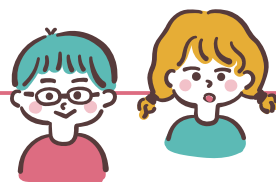
グループ
3

戦争がない世界がいい！動物の気持ちを考えよう！

(子ども2名・おとな2名)

#人と動物の命 #戦争や暴力のない社会

- 戦争をなくす！
- 悪口を言わない！
- たたかない、暴力禁止！
- 動物を大切にす！
- 動物は人と一緒ですよ～！
- 動物にも優しくする！人にも優しくする！
- ペットの世話をちゃんとやる。
- 命を奪わない！
- 戦争をなくしたいとみんなに伝える。偉い人に。
- 同じ考えの人を探す、たくさんの人の声を集める。
- 困ったら助け合う、理解し合う。
- 話して解決しよう。ごめんなさいを言う。
- いっぱい話し合う、周りの人と仲良くする。
(家族や友達、近くにいる人)
- 挨拶する。
- おじー、おばーの話を聞こう。
- 人に関心を持つ。
- 誰にでも心を開く！
- 困ってる人を見たら助けてみる。
- 見た目ではなく中身を見る。



グループファシリテーターより



「どんな街がいいか？」の問いに対して、小6女の子の第一声が「戦争がない世界がいい」でした。子ども達が言葉にするほど、戦争が身近に迫っていることにハッとさせられる場面でした。戦争と動物という2つのテーマのようにも見えますが、子ども達が通う居場所では動物を飼っており、人の命も動物の命を大切にしたいという共通の願いが込められています。

グループ
4

地下鉄や電車が通って楽に移動できる。公園がたくさんある。

(子ども2名・若者1名・おとな2名)

#移動手段・交通

- 地下鉄や電車が通って楽に移動できたらいいな。
- うま市の無料バス本数が少ない。
- 行きたい場所に自力でいけない。



- バスの本数を増やす。バス代の見直しを。
- 無料バスの行ける範囲、本数を増やす(土、日も運行)。
- 路線検索アプリを使って、無料バスを検索できる。
- 季節限定でシーバス！
- アンケートをとって本数のバランスを考える。

#公園・遊び場

- 使えない遊具や、地面がボロボロの公園も多い。
- きれいに整備された公園が欲しい。
- 暑くて公園に出づらい。
- 公園でボールで遊べない…



- ボール遊びのできる体育館や、公園をたくさん作る。
- ボールを使っても危なくない場所を見直す。
- 小さい子も雨の日でも遊べる屋根付きのエリアがある公園をつくる。
- 公園クリーンやりましょう！

#居場所

- 居場所が欲しい、居場所がない。

- 家以外の場所
- 安心できる場所
- 友人と過ごせる場所
- 何かが実現できる場所

#仕組み・体制の課題

- 公園の美化、移動手段について考えてくれる人が足りない。
- 周知の拡大は大事!!

- そのための予算を計上する→専門家を採用する→利用者の声に基づき全体を再設計する→新しい仕組みを維持、運用する体制を確保する→定期的にアンケートでアップデートする。
- こういう事に協力したい人を募集する。・集まった人でやれる事を整理する。
- やれる事からスタートする。・市役所をお願いする。投書箱に困っていることを書く。

グループ 5 | **支え合い、助け合いを自然とできる友達、仲間がいること。** (若者2名・おとな3名)

#支え合い・助け合い・関係性の土台

- ・支え合い、助け合いを自然とできる友達、仲間がほしいな。
- ・尊敬しあう、認め合う、応援しあう関係性が十分でない。

- ・あったか精神の人たち、ひとづくり、まちづくり。
- ・助け合い、支え合いを経験する人たちを増やす。
→それを返す人増加。

#楽しくつながれる居場所

- ・ちょっとした事や困りごとを気軽に話せる場所がほしい。
- ・子どもたちと、大人たちが相談できる場所あるといいな。
- ・学校の同級生、部活、
どこかのコミュニティで過ごす人たちに場所が必要。
- ・日常的に人が集まり元気になれる場が少ない。

- ・誰でも何の理由もなく来ることができて、人をつなげてくれる場所をつくる。
- ・しかも楽しくつながれる、趣味とかで。
- ・いろいろな子どもたちが集まる場所を作る。
- ・おとなもおとなで集まれる場所も作ればもったいい。
- ・集まれる場所は無料で借用できるようにする。
- ・一緒にご飯を食べるみんなの食堂。(市からの助成金をもらって今ある飲食店でやってもらう)



#子育てで孤立しない仕組み

- ・子育て中の親が孤立しがち。
- ・気軽に子どもと一緒に見てくれる人が家族以外少ない。
- ・見守ってくれる人がいると安心できるが、いない。



- ・夜や深夜の託児所
- ・自治会のコミュニティ(青年会、その他新しく作る)でみんなで子育て。
- ・子育て中、子育てが終わった人達のおしゃべり会を開く。
- ・子育て経験者を子育て中の世帯へ派遣する。
- ・ベビーシッターの資格を取ってシッターをする人が増える。
- ・疲れた時などに気軽に使いやすい一時預かり。

グループ 6 | **充実した公園～最強の公園プロジェクト～** (子ども若者4名・おとな1名)

#好きなこと・得意なことを思いきり試せる場所 #無料・誰でもアクセスできる公園 #世界とつながる #沖縄の自然(海・森・生きもの)や文化 #リアルな体験で遊び、学ぶ #社会やお金とつながる経験

沖縄はバイク、車人気がすごいのにサーキットがなく、多くの人は公道でレースをしたり、ドリフトしているので、大きくてバイクも車も楽しめるサーキットが欲しい。

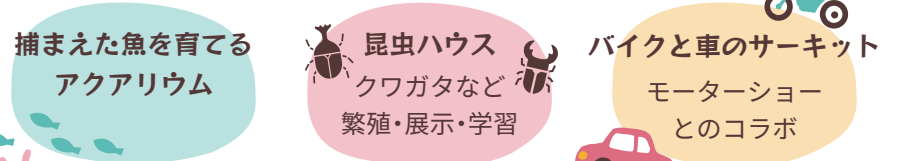
昆虫や魚が好きだけど、育てたくても家では無理。

沖縄にそもそも公園が少ない。お金がかかるアクティビティセンターが多い。

- ・海外の公園を視察する。
- ・収益化のビジョンをたてる。
- ・仲間を募り、企画会議。
- ・法律を調べる。
- ・スポンサーの開拓、クラファンなどで資金調達。
- ・子どもに体験型で面白く教えてくれるおとなの協力を得る。

- ・泡瀬、ゴルフ場跡地。既存道路+開発の活用。
- ・車好きな市長など巻き込んでまちの企画にする。
- ・世界規模のレースを開いて集客すればサーキットの聖地になるかも!!

最強の公園! 「解決アイデア」から「具体的なプラン」へアイデアがふくらんでいきました!



- ・無料でバスがどこからでも乗れる
- ・バリアフリー設計
- ・無料カフェ&食堂
- ・行政と市民で公園をきれいに保つ仕組み
- ・沖縄の在来種の生き物、自然、文化の紹介

グループ 7

どんな場所でも「自分の居場所」だとすべての子どもが思える 馬と暮らし、ものづくりと出会いがある、居場所

(子ども1名・若者2名・おとな2名)

多様な「自分の居場所」

- ・自由にもものづくりしたり、プロに出会える。
- ・ラフに使える宿泊場所。
- ・友達とず〜っと一緒。
- ・暑くてもあそべる。
- ・治安が良くゴミが無い公園。
- ・馬を引き取りたい。

- ・子どもが気軽に話しかけられる大人が常にいる。
- ・掃除をイベントにする。
- ・公園の清掃について市に考えてもらう。
- ・公園に見守りの人を配置する。

- ・公共施設でイベント募集して子どもの遊び場にできるのでは。
- ・「ビオスの丘」「あやはし館」の観光施設や公園、公共施設を拠点に居場所つくれそう。
- ・子どもの遊べる場所は無料にする!!

馬とふれあいたい

- ・馬が身近にいない。
- ・誰か!! 馬をください。



- ・馬主と協力。
- ・馬車のある国、フィリピンと協力。
- ・乗馬体験とかやってる人に聞いてみる。
- ・馬やその他の動物『ふれあい動物園』的なことをする!!

- ・出張お馬さんイベント、行くのが難しいなら逆に来てもらおう。
- ・海中道路で馬とお散歩。
- ・公園も奈良の公園みたいに動物を置いてほしい。
- ・馬でお手伝い→リース、草刈り。



グループファシリテーターより



馬を保護したい!という、当日最年少参加だった小学生の言葉をグループの大人の皆さんも真剣に受け取ってくれて、おしゅべりが進みました。はじめましての大人たちが自分の言葉にあ〜でもないこ〜でもない向き合ってくれる様子を見て、最初は不思議そうに照れていた彼が、少しずつ場に馴染んでいく姿が印象的でした。

グループ 8

誰でも無料で移動ができて公共施設もタダで使える

(子ども1名・若者2名・おとな2名)

遊び場

- ・家や学校の近くに自由に使える体育館や児童館が少ない。
- ・公共施設の利用が無料ではない。
- ・公園はあるけど整備はされていない。きれいな公園がいい。
- ・安心してボール遊びができる場所がない。

- ・子どもが入場無料の施設を作る。(無料にする)
- ・児童館を各小中学校の近くに一つずつほしいなあ〜。
- ・各公民館を児童館のような居場所として活用していく。
- ・中高生や大人も一緒に遊べる遊具や施設などあるといいな。
- ・公園を道路から離す。ネットやフェンスで仕切る。

移動の自由 (選択の自由)

- ・遊び場に行きたいけど、遠くて行けない。
- ・バス代が高い。
- ・出かけるには親の送迎が必要。

- ・無料で乗れる市内バスの本数を増やす。
- ・遊び場に行くためのシャトルバスを運行する。(期間限定でも)
- ・地域や年齢層で割引を付ける。
- ・行きたい場所ランキングを調べて、路線(時刻)を見直す。
- ・地域の企業にボランティアや維持費などを協力してもらう。(自動運転の機能が付けば運転手の負担も減って、人手を取らずに済むのではないか。)

治安・安全の課題

- ・治安に問題あり。
- ・道路に路駐が多い。

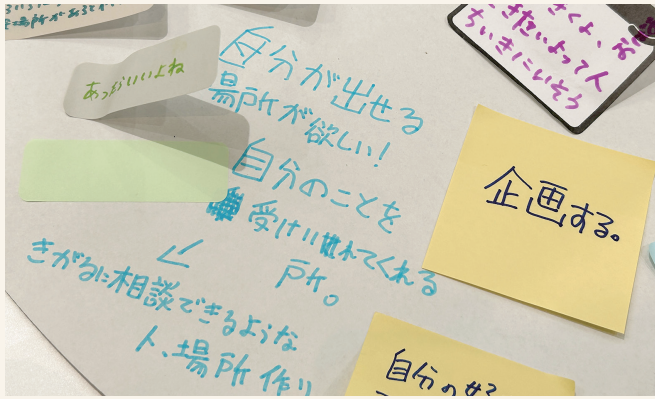


- ・街灯を沖縄全部に設置、暗い場所をなくして栄えさせる? ・パトロールを増やす。
- ・公共施設への監視カメラの設置。 ・市に駐車場を増やしてもらうようお願いする。

子ども参加・意見反映

- ・子ども若者の意見反映がされてない。 ・仕組みがあっても知られていない。

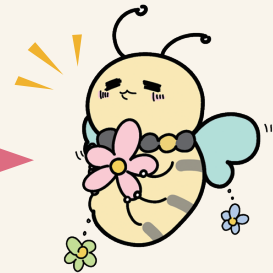
- ・市議会に要望する。市役所へ意見を伝える。 ・各小中学校でアンケートを取る。
- ・計画づくりに子ども・若者の意見を聴く場を設ける。 ・行きたい場所ランキングを知らせる。



沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクトとは？

沖縄県内の子ども・若者のウェルビーイング向上をめざし、子どもの権利を伝えるワークショップや、子ども・若者とおとなの対話の場などを2022年より実施しています。

「うまんちゅ」とは、沖縄の言葉で「みんな」を意味し、子ども・若者の声が大切にされ、ひとりひとりが尊重される社会の実現を“うまんちゅ(みんな)”で推進していくことをめざしています。



マスコットキャラクター
「うるびー」ちゃん

うまんちゅしゃべり場2025 運営団体



—児童労働のない未来へ—



認定NPO法人ACE

URUFULL



一般社団法人URUFULL

うまんちゅしゃべり場2025 報告書

発行年月日 | 2026年4月

発行者 | 沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクト

デザイン | 牧山萌

協力 | ちくちくや・江戸川子どもおんぶず

楽しい! は人生を変える力がある! と信じ、制約やルールが一切ない自由な手織り「さをり織り」活動をしている「ちくちくや」さんに、子どもの権利条約の「表現の自由」「意見を表し尊重される権利」を体感するはた織りブースを出展いただきました。

